

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第十四回）

○万葉集には全国各地に詠まれた故地がある歌がある。その一首に次の歌がある。

「取替川（鳥飼川）」

（福岡市鳥飼）

きぬ

とりかい

かわよど

洗い衣 取替川の川淀の
淀まむ心 思ひかねつも

卷十二―三〇一九 作者 未詳

（解説）

あなたを恋しく思う私の心は、鳥飼川の淵のようによどむことがあろうとは決して思われません。いつもよどみなく思い続けております。と恋心を川の流れに例えた一首。

・題詞は「物に寄せて思いを述べる」である。

「九州の万葉」滝口弘著によると「取替」は「とりかい」で、鳥類飼育の意味であって、取替川は鳥飼川であるとしている。我が国には古く鳥飼という地名が各地にあって、この歌の取替川ではないか

と考えられている故地が何か所かあるとし、大和の国・生駒郡法隆寺を流れ、竜田川に注ぐ斑鳩いかるがの富の小川。兵庫県津名郡鳥飼村の川、摂津国三島郡の淀川北岸の鳥飼、さらに九州にも久留米市西大石町を流れる金丸川、三井郡大刀洗町の鳥飼、ここは古代鳥飼所があったといわれ、そこを流れる鳥飼川。これらの川其々が取替川ではなからうかとの説がある。

・なお、今日の福岡市の鳥飼川ではないかという見方がある。「今の地行町（中央区）一帯で、鳥飼川が流れ、鳥飼八幡宮もある。」また、この地は「古くは水溜りの湿地帯で博多湾から湾入する入江であった草加江（千賀浦ともいう）に臨んでいて、古くは鳥を飼育することを業とした鳥飼氏が住んでいたところといわれ、この付近には近世まで鳥類がたくさん集まっていた。」と述べている。

現在、この地域一帯には鳥飼川あるいは取替川の名は見当たらないが、この地には福岡市南西部（現・城南区、南区、早良区の境）にある、山の名を聖武天皇の代に清賀という僧がこの山に住み、ゴマ油を作り近くのお寺に灯火油として送っていたことから由来すると伝えられる「油山あぶらやま（標高597m）」を源流とし、福岡市街地を蛇行しながら流れ博多湾へ注ぐ全長約13kmの樋井川ひいがわ（江戸時代

は田嶋川と呼ばれた）が流れている。

・樋井川流域には昔、鳥飼村（現・鳥飼）があり、鳥飼八幡宮も近くにあることから、鳥飼地域を流れる川として、この樋井川が万葉集に詠われている取替（鳥飼）川であると考えることができる。

・なお、筑前国続風土記拾遺しゅういには鳥飼村について「日本記に垂仁天皇すいにんてんのう（第十一代 天皇）の御世に、鳥飼部とりかこべを始めて置かれしよし見えたれハ、鳥飼村の名も其の鳥飼部の住たりし故の遺名なるべし。古来より此村に鳥飼氏の人の有しこと若八幡宮（後に「鳥飼八幡宮」となる。）縁起または本編にも見えたり。」とある。

「鳥飼部とりかこべ」とは古代、鳥を捕獲し飼育する技術を世襲し、それを職業とした人民の組織で、その居住地には鳥飼という地名がついたという説がある。

この「鳥飼」という地名は全国にいくつかあるが福岡市内には筑前国早良郡鳥飼村があったが、その村の一部であった地に現在、福岡市中央区鳥飼および城南区鳥飼の名が残っている。

また、『筑前国続風土記』に。「鳥飼村は鳥飼氏の旧邑きよむらなり、此の家は神功皇后に御饌ごせん（貴人の御膳に用いる米）を奉りし人の子孫まつりにて、天正（1573〜1592年）の頃までその裔えい（子孫）存すと

言へり。」とある。

このことについて「古地図の中の福岡・博多」には、鳥飼八幡宮の縁起について、神功皇后が新羅から凱旋し帰朝の折、この地で鳥飼氏が差し上げた夕餉ゆうげを賞美されたので、後世、鳥飼氏がそこに廟びょう（やしろ）を建て若八幡宮と号したとある。

・若八幡宮跡地に神功皇后が滞在したことを記念して大正時代に地元有志が「神功皇后御駐輦おちゆうれんの跡」との碑を建てた。

・記念碑は現在、南当仁みなみとうじん小学校裏門前の県営団地内にある小公園内（中央区鳥飼二丁目）に建てられている。



・また福岡古図には「鳥飼若八幡宮むかしハ鳥飼村ニ有、長政君、慶長十三年別野を構玉ふ、其境内に有りし故今の地ニ移させらる。」との書き込みがあるとのこと。

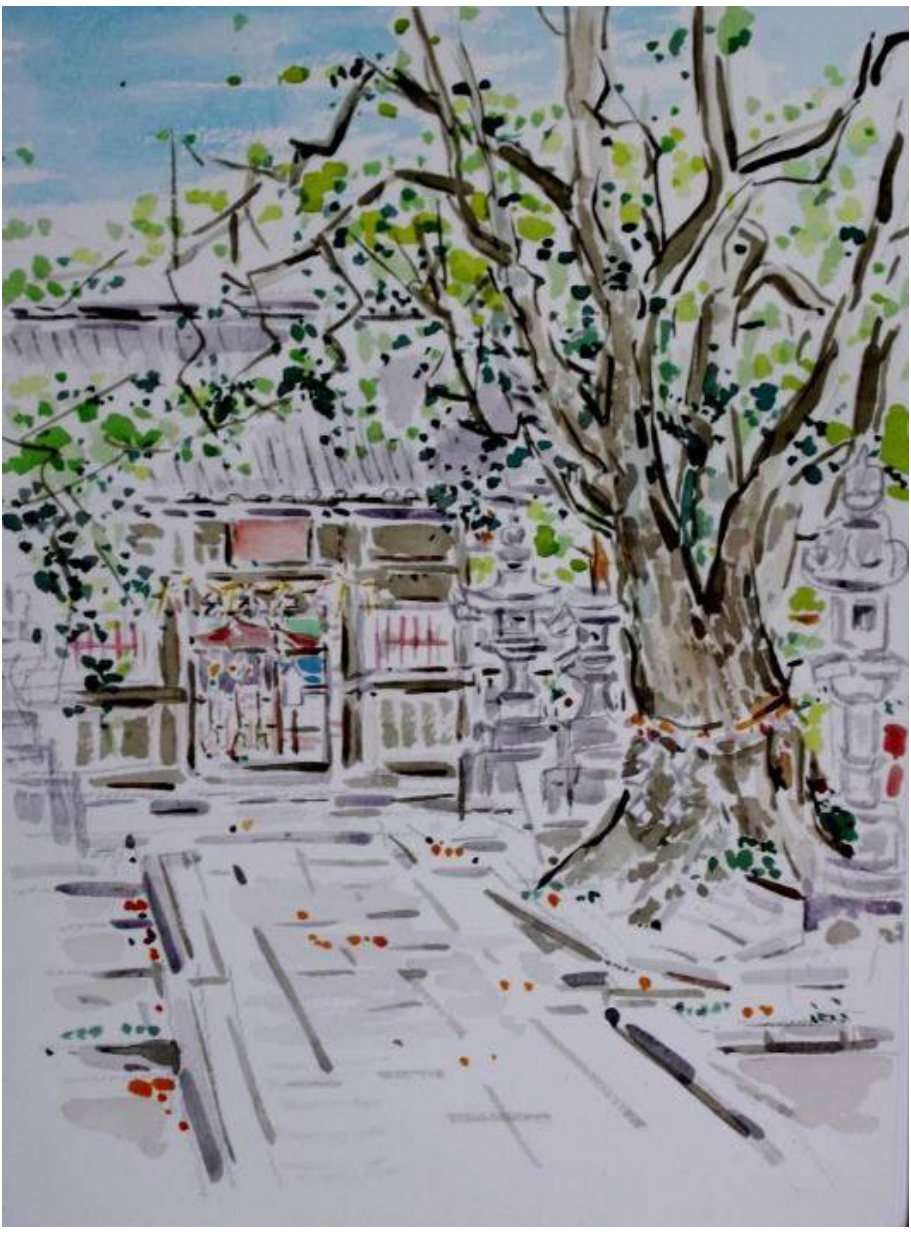
・慶長十三年（1608）、福岡藩初代藩主・黒田長政が鳥飼村平山（現・中央区鳥飼二丁目にある南当仁小学校の校内）に別屋（茶室）を設けるにあたり、その境内にあつた鳥飼若八幡宮をこの地から北西へ約600m離れた今の明治通に面する中央区今川二丁目（地下鉄「西新駅」と「唐人駅」の中間地）に移し神功皇后、応神天皇、玉依姫尊を祭神とした「鳥飼八幡宮」として遷座している。たまよりひめのみこと

なお、境内には当神社創建に関わりがあり、神功皇后をもてなしたと伝えられている鳥飼氏の始祖を祀った祠がある。

（写生地）

鳥飼八幡宮は東側を流れる桶井川と、西側にある古代福岡湾の入江であつた今、大濠公園の中間地の福岡市の都心部に位置し、周辺は都市化が進み、ビルが多く建つ中、市内に少なくなったこんもりとした森に囲まれ古代からの歴史を伝えるかのように鎮座している。神社の南前を東西に通る旧唐津街道側から神社境内を描く。（杏

花）



・「新修・福岡市史」には福岡市内の景観は江戸時代の慶長六年（1601）から始まった福岡城（福岡市中央区城内・別名＝舞鶴城）の築城により大きく変わったとある。

・古図（慶長筑前国絵図）には、当時できあがったばかりの福岡城の西側には、博多湾から湾入した入江が描かれている。

・この入江は万葉集にも「草香江の入江」として大宰府帥（長官）だった大伴旅人の歌で「草香江の 入江にあさる あし鶴の あなたづたづし 友無しにして」（巻四―575）と「草香江」が詠われている。

この博多湾から湾入した入江「草香江」を福岡城築城の際に浚渫しゅんせつし、一部を埋め立て、福岡城の西側を守る堀を作った。江戸時代には「大堀」と呼ばれていた現在の大濠公園である。

○樋井川は福岡城築城前まで、博多湾の入江（現・大濠公園）に注いでいたのを築城時に西に廻し、現在の流れである直接、博多湾に注ぐようになったのが古図から見てとれる。

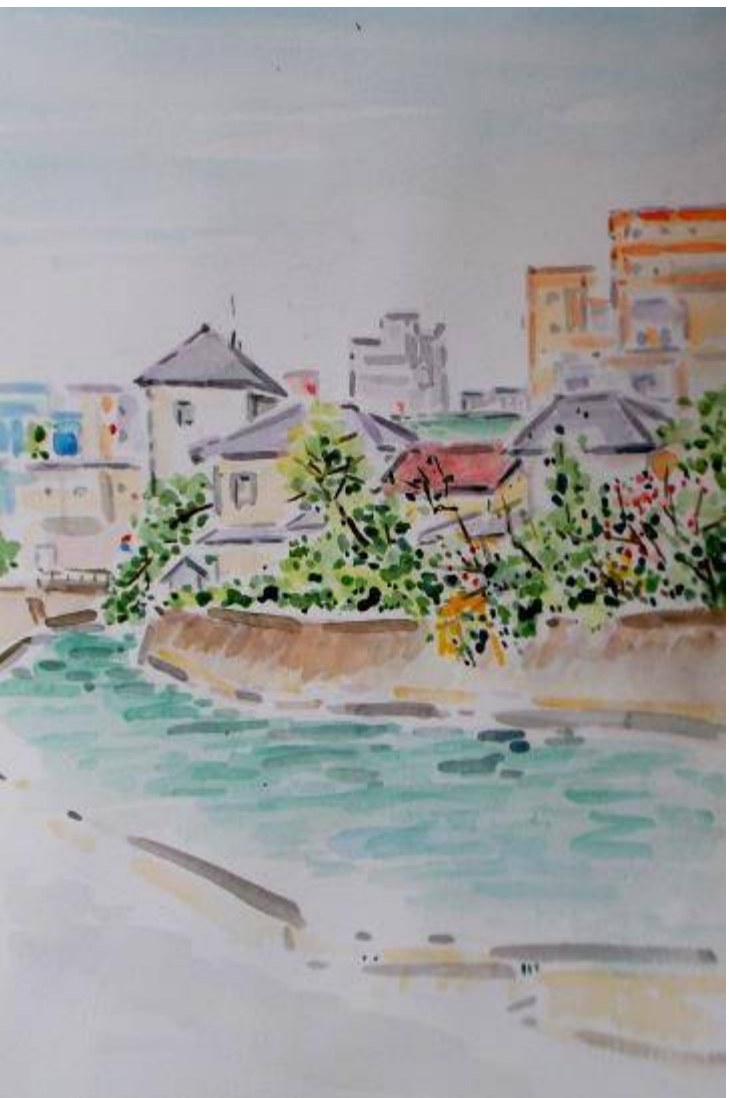
（写生地）福岡湾に注ぐ樋井川河口より約2、5キロ上流の東に中央区鳥飼一丁目、西に城南区鳥飼四丁目の間を蛇行しながら流れる樋井川の上流風景および下流風景を西岸から描く。（杏花）

この地の東隣接地に神功皇后がこの地で夕餉を食したという伝説が残る鳥飼八幡宮の旧地と樋井川が注いでいた古代、博多湾から湾入していた入江であり、現在、福岡市民のオアシスとなった大濠公園がある。

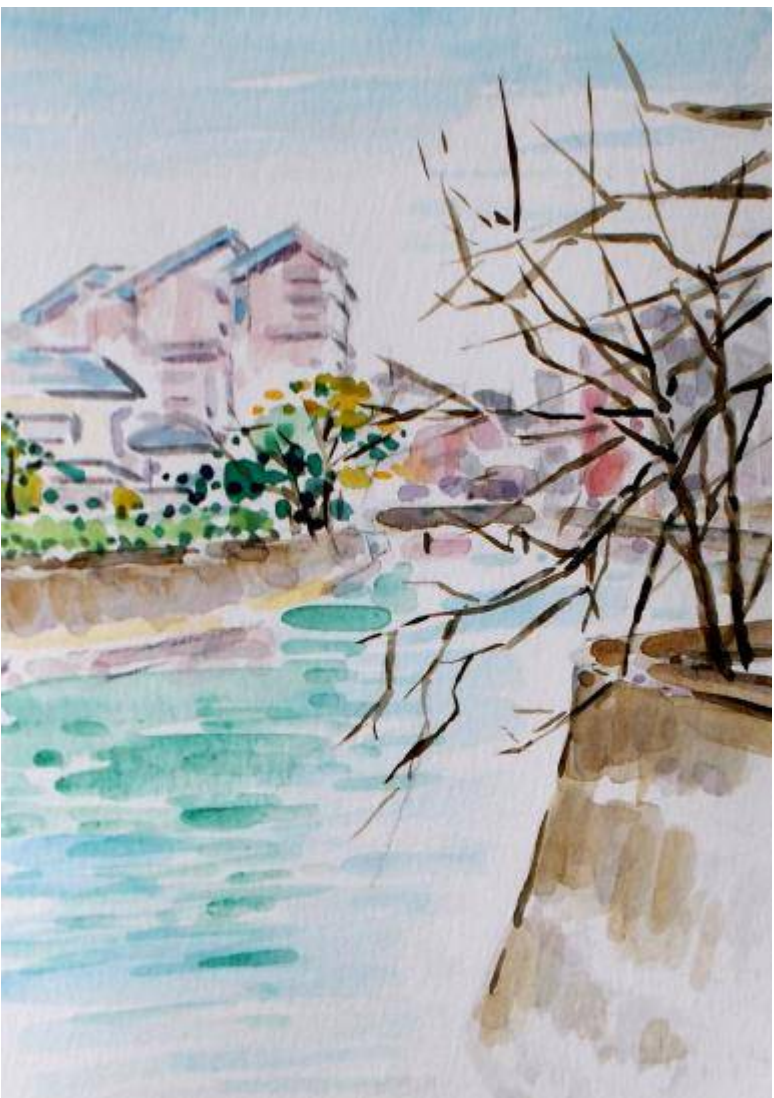
・現在の樋井川は河口部でプロ野球「ソフトバンク」の本拠地「福岡ヤフドーム」の西横を流れ博多湾に注いでいる。

（参考文献）・「九州の万葉」 滝口弘著 ・博多郷土史事典

・古地図の中の福岡、博多 ・新修福岡市史など



(写生地2) 「鳥飼」から市街地を流れる樋井川下流風景を描く。



(写生地1) 「鳥飼」から市街地を流れる樋井川上流風景を描く。